



# 春夏秋冬

2016  
vol. 6  
季刊発行

## eco 情報

### 「24時間換気システム」



500W小容量ファン

住まいは人間が生活する空間です。デザインや素材も大切ですが、住環境で一番大切なのが室内の空気が淀みなく循環に入れ替わることです。人間の血液が24時間入れ替わっているように、室内の空気も新鮮な空気と入れ替える必要があります。換気はある意味心臓の役割を担う大切なポジションです。

ソーラーサーキットには、いつでも室内を新鮮な空気で保てるよう、換気を計画的に行うシステムがあります。この換気システムを使用して、室内を24時間いつも新鮮な空気で保つことができます。

## 王家菜館

中田家の嫁、王さんが教える中国の家庭料理。ぜひ試してください。



### file No.006 「炒冬瓜（冬瓜と干しエビの炒め）」

95%以上が水分で低カロリーでダイエットに最適。夏の収穫だが冬まで日持ちするので冬瓜といわれる。



#### 材料（2人分）

- 冬瓜……………大きめ4分の1
- 油……………適量
- 塩……………適量
- 干しエビ……………少々
- 本だし……………少々
- 片栗粉……………少々

- 作り方
- ① 冬瓜は厚めに皮をむき、一口サイズに切る。
  - ② フライパンに油を入れ、熱くなった冬瓜を入れ炒める。こげないように少し水を加える。
  - ③ 少ししたら干しエビを加える。
  - ④ 塩、本だしで味を調える。
  - ⑤ 水で溶いた片栗粉を少々加えとろみがついたら完成。

夏の火照った身体を冷やす作用があります。是非お試しください。

### ソーラーサーキットの家



発行：有限会社 小山建設  
羽生市中央2-6-3  
☎048-561-6878  
info@e-hous.co.jp  
編集長：中田 新一

●webもご覧下さい  
<http://www.e-hous.co.jp/>

### \*三代目通信\*

夏休みに入った8月上旬は、大学のゼミで京都・奈良へ。帰ってきて「どうだった」との問いに、「ひたすら石段ばかりで疲れた」との答え、まだまだ修行が足りないようだ。

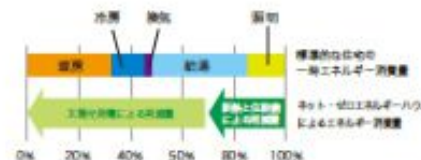
8月下旬は姉妹で韓国旅行。食べ物がおいしかったと言う言葉のおすそ分け、青春を謳歌している。

## 2020年Zero

2014年に政府が閣議決定したエネルギー基本計画の中で、2020年には標準的な新築住宅をネット・ゼロエネルギーハウス（ネット・ゼロ）とする目標を掲げられました。

### ネット・ゼロエネルギーハウスとは？

住宅の断熱性能や設備の省エネ性能の向上、再生可能エネルギーの活用等によって、年間の一次エネルギー消費量を正味ゼロにする住宅のことをさします。



※図表はあくまでイメージです。実際には様々な要因により変動します。  
※出典：ソーラーサーキット06、オフィシャルサイト <http://www.scs.jp/>

### 「時代は省エネからゼロエネへ」

これまでの「家で使用するエネルギーを大切に使う」というだけの時代から、3・11の東日本大震災を受け、みなさんのエネルギーに対する考えも大きく変わったことと思います。

今まで停電や電気料金の大暴落上げなど考えもしなかったのに震災は生活茶碗の考えを大きく変えてくれました。

照明も省エネのLED照明にシフトし、太陽光発電も国の補助金の力もあり大躍進に必要台数が増えました。

これからはソーラーパネルを使って自宅で電気を作り、建物の性能を上げ、夏の暑さや冬の寒さの影響を受けにくい高気密・高断熱住宅へ。その点でソーラーサーキットの家はゼロエネに向かう手助けになるでしょう。

そしてエアコンや給湯機も高性能の省エネタイプへ。つまり太陽光で自家発電し高気密・高断熱住宅にしてエネルギーロスを減らして、自家発電の電気を高性能家電で効率よく使用すればエネルギーゼロハウスの出来上がりです。

このたび当社「体感ハウス」にも、ソーラーパネルを設置しました！

(改修レポート)

### イベント報告



シオハラ谷での「すてき住まいの大感謝祭」の様子。ワークショップをして遊べるコーナーもあり、小さいお子さんでも楽しめました。

体感ハウスでの「夏の体感フェア」では熊本地震の後でもあったので、防災グッズをプレゼント。住まいと防災の話をたくさんさせてもらいました。



小山建設は夏涼しく冬暖かい新築・二重通気工法「ソーラーサーキット」をおすすめしています！



4  
羽生市東6-5-13 ☎048-563-1123



## OB訪問

小山建設で建てられた住まいを訪問し、今の住み心地等をうかがいました。

ソーラーサーキットの実際のメリット・デメリットから今後より良い家づくりをするためのヒントを見つけたいと思います。



ソーラーサーキット築10年

### お客様インタビュー「U邸」

ソーラーサーキットで家を建てて10年が経ちました。当社に初めておいでになられた時、ご夫婦は30代前半で幼稚園に通っているお子様が一人いらっしゃいました。打ち合わせ時は我が家の当時小学生の娘がお子様との遊び相手でした。

お客様の第一印象は、お若いのにしっかりしている、大手のメーカーで設計のお仕事に携わっているとの事で家へのこだわりもはっきりしている、というところでした。

印象に残っていることは、家の顔ともいえる玄関はいくつもの偶然からデザインが決まりました。敷地の関係でどうしても浄化槽を玄関先に設置することになったのですが、当社の作業場にいらした時にたまたまキリスト教会の修復工事をしていました。その修復に使用していた杉板の素材に目を止められ、あれを使いたいということで玄関先に使わせていただきました。上質な材料ではありませんが素朴な材料なので、それに合わせる様に床材はきちっとしたタイルではなくレンガに決め、浄化槽との関係を考え玄関先に囲いとベンチシートを配置し、ついでにレンガを台座にしたポストを設置する事でおしゃれな玄関が出来上がりました。



素材なレンガが印象的な玄関。

玄関を入ると手作りの手洗いがあります。台はモザイクタイルで作り台の下はオープンにしました。ここには奥様のこだわりが見えます。壁には木製ウッドデッキを作りました。強いも近隣の視線を考慮して目隠しと風通しで形が決まりました。



モザイクタイルで動き取めた手洗い。



壁に開放的なウッドデッキ。

新しい家に住み始めて二番目のお子さんも誕生し、夜中の授乳も楽くないのでとても楽に子育てができたとのこと。生活が落ち着いたら、3・11東日本大震災が発生。幸い家への被害はなかったのですが、4月から4年タイへの海外赴任が決まり家族に行くことに。4年という期間、家はご両親に月に一度くらい手入れをしてもらったそうです。こだわりの家なので人に貸すことは考えなかったと仰っていたのが印象的でした。

4年の空白を乗り越え日本での生活が再度始まりましたが、旦那さんだけは一年の滞在延長を求められ5年間の赴任生活だったそうです。今やっこのこだわりの家でゆっくりと生活することが出来るようになり、ふとタイでの生活は夢の中の出来事だったのでないのかと思う日もあったと仰っていました。

## 地元・羽生市での取り組み

### 「相生町と村君との交流事業 - 続き -」

今年のテーマは「農業体験」ということで5月に村君で田植えを行いました。今回は稲刈り編です。

9月18日(日)村君の延命寺に9時集合。天気予報でも雨、朝9時の段階でも小雨でしたが、せっかくの機会なので一人一株でもよい体験になればと稲刈りを3行することに決めました。

田植えと違い稲刈りは危険ですので、農家の方の説明の後大人を挟んで一組五人ずつ作業となりました。最初の頃は鎌の扱いにてこずっていたのに2~3株もやると手馴れてきて、一回終わっても列の最後に再度並ぶ子が続出。貴重な体験をさせてもらいました。



延命寺集合



稲刈り



「イオン農場」での小松菜採り



新米の試食会

続いては近くにある「イオン農場」のご厚意でビニールハウス内の小松菜採り。こちらはハウス内ですので雨の心配もなく、大きな袋を入り口で受け取って持ち帰りも入り乱れての小松菜採りは30分ほどで大きな袋いっぱい。親子共々笑顔でいっぱいでした。最後は、雨のため「空と雲の家」の施設をお借りして、新米の試食会。

奥だくさんのトン汁も作り、労働の後でお腹がすいたのか黙々と食べていました。一人1Kgの新米をお土産に、雨の中とは思えない楽しい一日でした。

たくさんの方々のご厚意に感謝です。

## 匠の仲間たち

わたしたちがいつもお世話になっている心強い匠たちをご紹介するコーナーです。

▶ file no.006 有) ヤマガシ 山岸 宗雄さん



### PROFILE

生まれ：昭和30年  
出身：羽生市

住まいの内装やさん。部屋の壁紙、床のカーペット、クッションフロア等大工さんが終わった後の仕上げの仕事。出来栄は彼の腕に掛かっている。家業は三代目。初代は職前に帰郷としてスタート。当時は一般家庭では掃を買って布団は自分で作っていた。二代目は帰郷で修行した後、昭和30年代に布団屋を開業。そんな家に育った三代目は理系の大学を出て就職しながらも、自営業の束縛から逃れられず二年で退職して類似の内装の道へ4年半修行した後、開業。気が付けばこの道35年。1男2女に恵まれ、子供たちも独立。子供たちが小さいころは、毎月シーズンは家族でスキーに行っていた。今の趣味は健康のためマラソンと自転車。走行距離は減ってはいるがまだ続けている。今年からは羽生市建設組合の組合長として建設の発展のためにエネルギーを注いでいる。